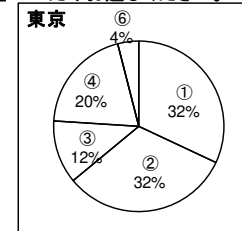


セミナーへのご参加、そしてアンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

Q1. 株式投資は企業の成長が前提ですが、企業が持続的に成長するための必要な要素として、最も重要だと思われるものを一つだけお選びください。

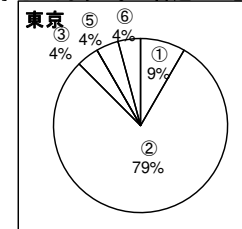
	東京	合計
① 技術、ノウハウ、専門性等	8名	8
② 人材マネジメント	8名	8
③ ガバナンス	3名	3
④ 顧客志向性	5名	5
⑤ 社会性(環境配慮、ダイバーシティ等)	0名	0
⑥ その他	1名	1
合計	25	25



【複数回答】 ①②...1名
 【その他回答】 経営の事業意欲、執念

Q2. 投資家の視点に立ち、また株式全体の組み入れを維持するという前提のとき、内外株式の配分について、どのようにお考えでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけお選びください。

	東京	合計
① 日本株式を減らして外国株式を増やす方向で、調整を行う。	2名	2
② 日本と外国という区分を廃止して、グローバル株式へ一本化する。結果として、日本株式の実質的組み入れが変動するのは当然。	19名	19
③ 相対的に割安な日本株式を増やし、外国株式を減らす方向で、調整を行う。	1名	1
④ エマージング市場の株式を増やし、他を減らす方向で、調整を行う。	0名	0
⑤ その他	1名	1
⑥ 無回答	1名	1
合計	24	24

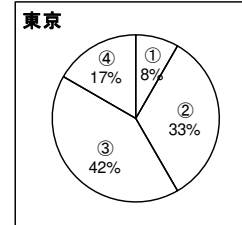


【その他回答】

より分析精度が高いであろう日本株式を中心に、補完的な位置付けで外国株式を扱う。

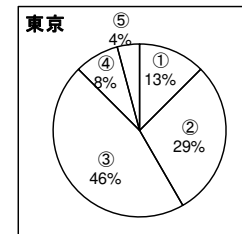
Q3. 投資家の視点に立ち、また日本と外国の株式全体の組み入れを維持するという前提のとき、アクティブ運用とインデックス運用の配分について、どのようにお考えでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけお選びください。

	東京	合計
① 全てインデックス運用。	2名	2
② インデックス運用を増やし、アクティブ運用を減らす。	8名	8
③ アクティブ運用を増やし、インデックス運用を減らす。	10名	10
④ 全てアクティブ運用。	4名	4
合計	24	24



Q4. 株式運用において、「バリュー」と「グロース」というような伝統的なスタイルの区分をすることについて、どのように、お考えになりますか。仮に、運用会社を選ぶ立場(投資家やコンサルタント)に立ってとして、一番近いと思われるものを、一つだけお選びください。

	東京	合計
① そもそも、一定の既成概念で運用の手法を分類することは、不可能。全てインデックス運用。	3名	3
② 一定の運用手法の分類は、技術的にあり得ても、適当でない。運用会社に形式的なスタイルの枠に拘泥した運用を強制させる弊害があるのみで、有害。	7名	7
③ 全く自由な運用というも、問題がある。合理的な分類方法に基づいて運用会社を選択する必要がある以上、不可欠。ただし、本当にリスク分散等の視点で有益かどうかは、わからない。	11名	11
④ 運用会社の選択にとっても不可欠だし、リスク分散等の視点でも有益。アクティブ運用を増やし、インデックス運用を減らす。	2名	2
⑤ その他	1名	1
合計	24	24



【その他回答】

本源的価値に対する一貫性